

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 7 月 11 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23500687

研究課題名(和文)『イリアス』の運動競技における精神性に関する研究

研究課題名(英文)A Study on the Spiritualism of the Athletic Games in the Iliad

研究代表者

小林 日出至郎 (KOBAYASHI, Hideshirou)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：10195802

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果として、『イリアス』において、人間の幸福に繋がる運動競技の精神性は、「賢明さ」をともなう「力」の活用であることが明らかにされた。命の安全を基本とする運動競技において、英雄たちは、「賢明さ」を生かした「力」の活用という精神性を尊重している。英雄たちの「力」の発揮には、『イリアス』において、神々と英雄たちの関係性がある。神々が彼らに影響する時、彼らは身体的特性をともなう凄い力を発揮する。

研究成果の概要(英文)：It was shown clearly as the result of this study that the spiritualism of the athletic games connected with man's happiness in the Iliad was practical use of "Might" with "Wisdom". In the athletic games based on the safety of a life, the Heroes respect such spiritualism. In the Iliad, there is relationship of the Gods and the Heroes about the exertion of "Might" of the Heroes. When the Gods influenced them, they could achieve the extraordinary work with the physical characteristics.

研究分野：身体教育学

キーワード：運動競技 精神性 競争 普遍的存在 賢明さ 力 身体的特性 安全

1. 研究開始当初の背景

(1) ホメロスの叙事詩『イリアス』は西洋最初の文学作品であり、時代と地域を越える世界的古典である。この作品は西洋古典文化に関する基本的認識のために不可欠であるが、身体教育や運動文化の本質的解明においても人類学的価値がある。特に『イリアス』第23歌においては、運動競技が詳述され、生命の安全を尊重する運動競技、フェア・プレー、人間を活かす運動等が示唆されている。これらの探究は現代スポーツや体育の本質解明において重要な示唆をもたらす可能性がある。

(2) 本研究者は、2003年の国際スポーツ哲学会(第31回大会、イギリスのグロスターシャ大学において開催)で「現代スポーツにおけるホメロスとプラトンの現代的意義に関する研究」において、ホメロスの思想が現代の運動競技実践に有益な視点をもっていることを指摘し、2007年に生命の安全と、時代と地域を越える「普遍的存在」という観点からホメロスとプラトンの運動文化に関する現代的価値を研究し、研究論文(「引用・参考文献」)をまとめ、ホメロス研究が人間の幸福をもたらす運動競技の本質解明に繋がる可能性を示唆している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、『イリアス』の運動文化思想を研究し、人間の幸福に結びつく運動競技の精神性を解明することである。この目的を達成するためには、時代と地域を越える本質理解ための鍵概念;「競争」「闘争」「普遍的存在」「魂」の再検討、これらの構造化と関係性の解明に基づく運動競技の本質把握、及び、人間の幸福に結びつく運動競技の精神性の解明が必要である。

3. 研究の方法

本研究は、オックスフォード大学出版の古典テキスト『イリアス』を中心に「競争」「闘争」「普遍的存在」「魂」に焦点化し、戦場と運動競技の場面における英雄たちの精神性を分析・探究し、時代と地域を超越する運動

競技に関する精神性の解明を行うという方法を用いた。

4. 研究成果

(1) 平成23・24年度は、英雄たちの戦場と運動競技場面における「競争」「闘争」の状況を、主に分析・検討し、彼らの「魂」に関する研究を進め、精神性を探究した。研究成果は、2011年9月の日本体育学会第62大会・体育哲学領域において発表(「学会発表」)すると共に、2013年の研究論文(「雑誌論文」)として公表した。

英雄たちは命を賭した身体的競争、いわゆる戦場において、賢明な能力を發揮している。神々から支援される彼らの勇気や力があっても、知恵・才覚・思慮という「賢明さ」ともなわれない行為は、戦争における英雄たちの自己破滅に繋がっている。戦場で活躍する英雄たちの特性は、神々からの支援を授かる気質・体力を持ちつつ、「賢明さ」ともなう身体的能力を發揮していることである。

『イリアス』の運動競技は、命の安全を尊重する競技者同士の合意によって成立している。これは戦争の闘争的運動場面における人間の意志とは決定的に異なる。戦場では生死を懸けた闘争が展開されるが、運動競技場面では命を危険にさらす行為、不正な行為は否定され、正しい行為が重視される。さらに、この作品では真剣な闘いにおける自己保存的欲求のコントロールが重視されている。運動競技で活躍する英雄たちは、戦場と同様に「賢明さ」ともなう身体的能力の發揮がある。

(2) 平成25・26・27年度は、平成24年度までの研究成果を踏まえ、人間を超える「普遍的存在」と英雄たちの関係性という観点から、英雄たちの懸命な格闘としての身体運動に焦点化し、「普遍的存在」である神々と英雄たちのメノス(以下「力」)について研究を展開した。この研究過程において、「賢明さ」ともなう「力」の發揮に関して、その

身体的特性が明らかにされた。研究成果は、2012年12月の日本体育学会・体育哲学領域・定例研究会において発表(「学会発表」)すると共に、2016年の研究論文(「雑誌論文」)として公表した。それらの研究では、神々の影響による英雄の「力」の高揚に関して、ディオメデス、ヘクトル、アキレウス、アイネイアスを中心に論考が展開されている。

ディオメデスは、戦場において女神アテネにより彼の「力」が高まり、その時の彼は、女神テティスを母とし、ギリシア軍最強の英雄アキレウスを凌ぐ、尋常ではない活躍をする。この活躍を、トロイア側の代表的英雄2人は脅威の目で捉えている。女神アプロディテを母とするトロイア側豪勇アイネイアスと弓矢の名手パンダロスである。

トロイア方総大将ヘクトルは、聡明な英雄であり、両軍戦争の回避の方策として、王子パリスとスパルタ王メネラオスの一騎討ちを提案した人物である。しかし、主神ゼウスの意図により、両軍の戦闘が始まる。アキレウス不在の戦場において、彼は主神ゼウスと神アポロンから、彼の「力」を高められ、ギリシア軍が祖国へ撤退しそうになる程の活躍をしている。このような活躍について、スパルタの王メネラオスとギリシア軍の砦と評される大アイアスは、ギリシア軍の劣勢の中、彼の姿を尋常でない勢いとして把握している。

アキレウスはアイネイアスと対戦する。アイネイアスは過去の体験から、アキレウスが女神アテネにより人間力を高められる英雄であることを理解している。しかし、アイネイアスは神アポロンから「力」を高められ、アキレウスと対戦することになる。この格闘では、アキレウスもまた、女神アテネから「力」の高揚を受けている。結果として、アイネイアスはアキレウスとの格闘で瀕死の状態になる。その後アキレウスは、その「力」により神のように活動することになる。

(3)以上の研究成果((2) -)と共に、『イリアス』の運動文化思想の研究では、人間の幸福に結びつく運動競技の精神性と関連し、神々の影響による英雄たちの「力」の身体的特性が明らかにされた(「雑誌論文」)。この特性は、「可視化」「栄養」「対人性」という以下の3つである。

戦場で神々から「力」を高められた英雄たちは、まず、身体的に、敵方の英雄たちに驚くような姿として把握されている。この「可視化」は、『イリアス』を代表する敵方の英雄たちに実感され、神々から高められた「力」は英雄たちの脅威の姿として語られている。アイネイアスとパンダロスに向かってくるディオメデスの姿は、ギリシア最強のアキレウスを凌ぐ英雄として、トロイア方の2人に実感される。また、ギリシア軍の本陣に迫り来るトロイア軍最強のヘクトルの活躍は、荒れ狂う軍神アレスの如き戦いの姿として、メネラオスと大アイアスによって捉えられている。さらに、女神アプロディテを母とするトロイア軍のアイネイアスは、アキレウスの闘争の姿に女神アテネの支援を受ける「力」を観取している。

飲食による「栄養」は、英雄たちが戦場で「力」を発揮し、活躍できる基盤となる。神々から「力」を高められ、普通ではない活躍をする英雄であっても、食べ物や飲み物としての食事、すなわち「栄養」を考慮できない英雄は命懸けの闘争において活躍できないのである。そのことは、ディオメデスやギリシア方英雄を代表する知者オデュッセウスによっても語られている。神々によって戦場で「力」を高揚される英雄たちはその基本に、身体性としての「栄養」がある。

神々から「力」の高揚を受ける英雄であっても、他の英雄との関係においては、活躍できない場合がある。これは「力」に関する「対人性」という身体的特性による。神々からの影響による「力」の高揚は、英雄たちとの格

闘において現実化されることになる。アキレウスとアイネイアスは共に、女神を母とし、神アポロンにより「力」を高められたアイネイアスは、両女神アテネとテティスが支援するアキレウスと、尋常でない「力」をそれぞれ発揮し、格闘する。結果としてアキレウスが勝利することになる。神々から高められた「力」は、個人に留まるのではなく、「対人性」という身体的特性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

小林日出至郎、『イリアス』におけるメノスに関する研究 - 神々と英雄の関係性の観点から -、体育哲学研究、日本体育学会体育哲学研究領域・学会誌、査読有、第 46 号、2016、1 - 12

小林日出至郎、『イリアス』における競争に関する研究 - 戦争と運動競技における英雄ディオメデスを中心として -、新潟大学教育学部研究紀要、査読無、第 6 巻第 7 号、2013、91 - 97

〔学会発表〕(計 2 件)

小林日出至郎、『イリアス』におけるメノスに関する研究 - 「不死なる存在」と英雄の関係を中心として -、日本体育学会・体育哲学領域・定例研究会、2012 年 12 月 20 日、明治大学(東京都)

小林日出至郎、『イリアス』における競争に関する研究 - 戦争と運動競技におけるディオメデスを中心として -、日本体育学会第 62 回大会・体育哲学領域、2011 年 9 月 21 日、鹿屋体育大学(鹿児島県)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 日出至郎 (KOBAYASHI Hideshirou)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：10195802